

93/3/29

見送りに駆け付けた支援者らと握手をかわすジュナイドさん

西本 伸三郎 (左から3人目)

福岡空港



## 学んだ技術で、夢実現を

バンガラ留学生

ジュナイドさん

## 病院開設へ帰国

見送りに駆け付け「いつかぜひ様子を見に行きます」「頑張ってください」と口々に励ましの言葉をかけた。

出発までに集まった医療機器は麻酔器や腹部エコー、救急車代わりのワゴン車一台を含む四十五点。輸送費は支援者からの寄金で賄った。

ジュナイドさんは、すでに帰国して準備を進めている琉球大卒業のファイサル・ムアザムさん(三三)、四月二日に帰国する東大卒業のサルダール・ナウムさん(三三)とともに準備を始め、夏には開院の予定。

九大医学部麻酔科を三月卒業した留学生ジュナイド・シャフィックさん(三三)は、母国バンガラデシュに戻って病院を開くため、二十九日、母国に向け福岡空港を出発した。支援者からジュナイドさんの元に寄せられた中古の医療機器は、四月五日、船便で門司港から現地に送られる予定だ。

空港には、大学や病院の関係者ら支援者約二十人が

ジュナイドさんは「貧しい人々のための無料の病院が夢。日本で学んだ技術と機器を生かして、必ず夢を実現させます」と意欲を語っていた。